



(記念イベント) 内川水土里の路ウォーク

【大崎土地改良区】

第12回内川水土里の路ウォークは、大崎土地改良区が申請していた「内川」が平成28年度「世界かんがい施設遺産」に認定され、併せて仙台藩祖伊達政宗公の生誕450年の記念イベントとして、また、大崎地域世界農業遺産推進協議会が申請しておりました「大崎耕土の巧みな水管理による水田農業システム」が日本農業遺産に認定されたことを記念し、宮城県北部地方振興事務所、大崎市に共催頂き、宮城県土地改良事業団体連合会に後援頂き開催致しました。

内川の歴史

内川は、宮城県の北部大崎市岩出山～大崎市古川（延長9.4 km）へ流れる農業用水路です。

内川は、独眼竜として名を馳せた伊達政宗公によって開削された歴史のある水路です。伊達政宗公は、1567年8月に山形県米沢城内で誕生し、1591年9月に、米沢城から岩手沢城に移り住んだ際に町の名称を岩出山に改め、政宗公は城下の整備と町割りに着手すると共に、内川の開削を同時に行いました。

内川は、城の防備のため常に満々と水が流れたこともあり、この地域の農家は米を大量に生産することが出来るようになり、伊達藩の基盤を支えることが出来るようになりました。

伊達政宗公の入封から400年目にあたる、平成3年から国営かんがい排水事業と県営水環境整備事業の共同工事により内川改修事業が行われました。

内川の改修は、内川の自然的、歴史的価値を守るため、自然石による石積み護岸水路で整備が行われ、内川沿いにある国の史跡名勝「旧有備館」から下川原橋までは石畳を協調した遊歩道（延長1.7 km）で整備されました。



改修された 内川

活動内容

当イベントは平成17年度から毎年開催しており、内川沿線をウォーキングすることで、内川の歴史と内川が持つ機能について、また、内川周辺の保全活動について説明を行っています。

第12回内川水土里の路ウォークは10月7日小雨の降る中県内各地より76名の参加を頂き開催致しました。

午前には、江合川上流部に造成した「岩堂沢ダム」を見学する「ダム見学コース」と、「生き物調査コース」（雨天により中止）、甲冑を体験する「甲冑コース」に分かれてイベントを行い、「甲冑コース」参加者は、杵と臼をつかってもちつき体験も行い、ついた餅は参加者全員に提供致しました。



甲冑の装着体験

昼食時間を活用し国の史跡名勝「旧有備館」と日本刀専門美術館「中鉢美術館」の見学も行いました。午後から、内川沿線をウォーキングしながら内川の歴史に親しんで頂く共に、内川の景観・美化保全活動について説明を行いました。

伊達政宗公により400年以上前に開削された内川は、地域の宝として、今後も関係機関と連携を取りながら守り伝えて行きたいと思っております。



伊達政宗公霊屋 瑞鳳殿における取り組み

【公益財団法人 瑞鳳殿】

協力：伊達家伯記念會

瑞鳳殿は政宗公逝去の翌年1637（寛永14）年に創建された墓所です。桃山の遺風を伝える絢爛豪華な霊屋建築は国宝の指定を受けましたが、戦災で惜しくも焼失しました。現在の建物は戦後に再建されたもので、改修を経て創建当時の姿が見事に蘇りました。霊屋の下には今も政宗公が眠っています。敷地内には二代藩主 伊達忠宗公の霊屋 感仙殿、三代藩主 伊達綱宗公の霊屋 善応殿も再建され、全国から毎年20万人を超える観覧者が訪れています。生誕450年を記念しての取り組みをご紹介します。

瑞鳳殿本殿特別御開帳の実施

瑞鳳殿では「御開帳」として本殿の正面扉が開けられる特別な日があります。御開帳によって安置されている政宗公の御木像をご覧いただくことができるのです。

通常の御開帳は政宗公の命日にあたる5月24日、新年1月1日～2日、せんだい七夕まつり期間（8月6日～8日）などに限られています。生誕450年の今年は誕生日にあたる8月3日を中心として42日間（7月21日～8月31日）にわたり特別に御開帳の日を設けました。特別御開帳期間中の観覧者は47,672名と例年の約1.5倍にも及びました。



本殿御開帳の様子

記念御集印の頒布

瑞鳳殿は墓所であるため、墨書押印による「御朱印」に代わり、あらかじめ和紙に政宗公辞世の和歌を押印した参拝記念の「御集印」を頒布しています。今回、生誕450年を記念し伊達家十八代当主伊達泰宗氏に「瑞鳳殿」と揮毫いただき、伊達家の定紋「竹に雀」の家紋を押印した特別な御集印を作成し、限定2,000枚を頒布しました。頒布は7月21日から開始し、8月13日には予定枚数が終了しました。



限定の記念御集印

政宗歴史塾の開催

瑞鳳殿では政宗公の誕生日にあたる8月3日には、毎年専門家をお招きして伊達家や政宗公に関する講演会「政宗歴史塾」を開催しています。今回は生誕450年を記念して「伊達政宗公の『食』と『もてなし』」と題し宮城県の食文化に詳しい佐藤敏悦氏（東北民俗の会会長）と、伊達泰宗氏（伊達家十八代当主）のお二人からご講演をいただきました。会場である江陽グランドホテル4階銀河の間には200名余りの方が参加されました。講演では、政宗公の食へのこだわりや、生誕450年を迎えての思いなどを、お二人それぞれの立場からお話いただき、大変興味深いものとなりました。



佐藤敏悦氏（左）と伊達泰宗氏（右）による講演



平成29年度第33回仙台・青葉まつり

【仙台・青葉まつり協賛会】

伊達政宗公没後350年を記念して復活した仙台・青葉まつり。平成29年度第33回の開催は、タイトルに「政宗公生誕450年祭」を掲げ、祝いの賑わいづくりに努め、仙台の歴史・文化を背景に市民の気概を力強く発信し、観客とつくり手が心を一つにして楽しめるまつりを目指し実施した。

「政宗公生誕450年」街頭装飾の設置

「政宗公生誕450年」のバナー・ペナントを制作し、例年掲出している「仙台・青葉まつり」バナー・ペナントとともに掲出。「政宗公生誕450年」のペナントはまつり終了後も継続して掲出した。

伊達政宗公生誕450年記念トークセッションの実施

仙台市との共催で、仙台市の歴史姉妹都市および伊達政宗公が生涯の一時期を過ごした都市の首長らを招請しトークセッションを実施。政宗公の生涯や人物像、伊達家の歩みの軌跡を各地域からの視点や専門家の見解を踏まえて紹介し、政宗公の功績を再認識する機会とした。

- ・実施日時 5月20日（土）
- ・会場 せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
- ・来場者数 約200人超



宇和島伊達家13代御当主と伊達家ゆかりの町からゲストが参加

政宗公の長男で宇和島藩藩祖となられた伊達秀宗公。直系の宇和島伊達家13代御当主・伊達宗信氏をお招きし、伊達家18代御当主・伊達泰宗氏と共に騎乗にて時代絵巻巡行に参陣。さらに宇和島市長（愛媛県）、白老町長（北海道）、米沢市長（山形県）、大崎市長（宮城県）にも、開催式典等にもご参列いただいた。

- ・開祭式 5/20（土）／市民広場
- ・時代絵巻巡行 5/21（日）／東二番丁通～定禅寺通



伊達政宗公生誕450年記念「祝いの儀」の実施

仙台藩祖・伊達政宗公生誕450年を出演者、来場者である市民と共に仙台木遣りと伊達家由来の伊達の一本締めで参加者・観客が一体となって締めくくった。

- ・政宗公生誕450年記念「祝いの儀」
5/21（日）／定禅寺通



その他の政宗公生誕450年特別企画

宵まつり（5/20）の定禅寺通演舞場の演舞時間を時間延長し、政宗公生誕450年祭の前夜祭としてまつりを盛り上げた。その他、政宗公生誕450年を祝う特別企画として、伊達家伝統の弓術のお披露目や政宗公の偉業や仙台の歴史を織り込んだ新作紙芝居の上演を行った。

- ・伊達政宗公生誕450年祭・前夜祭 定禅寺通演舞場の時間延長 5/20（土）
- ・伊達家伝統弓術「伊達日置流印西派弓術」披露 5/21（日）／東二番丁小学校
- ・紙芝居「政宗公ものがたり其の式」上演
5/20（土）・21（日）各日3回／勾当台公園（伊達縁）



伊達政宗公生誕450年の取り組みについて

【仙台市】

平成29年は仙台藩祖伊達政宗公の生誕450年という節目の年にあたることから、仙台市では様々な記念事業を実施し、政宗公の功績を顕彰するとともに交流人口の拡大に取り組んでまいりました。

5月20日には、政宗公ゆかりの都市（愛媛県宇和島市、北海道白老町、山形県米沢市、大崎市）の首長らを招待したトークセッションとゆかりの都市（30都市）を紹介するパネル展を開催しました。

トークセッションの参加者は200名を超え、多くの皆さまに各都市との絆の深さを知っていただくとともに、仙台市民にとって政宗公がいかに大きな存在であるかを再認識するきっかけにもなりました。6月には北海道に仙台すずめ踊り団を派遣し、歴史姉妹都市である白老町および伊達家ゆかりの都市である当別町、伊達市を訪問して交流を深めました。



偉大な仙台藩祖政宗公の生誕450年をまち全体で盛り上げるため、市内各所（市役所、商店街、バスプール等）に看板・バナー等を設置しました。「山形文様陣羽織」デザインの新しい「るーぷる仙台」もデビューし、450年記念に販売した特別デザインの日乗車券は大変好評を得ました。また、仙台に今も残る政宗公の足跡や遺産を紹介するリーフレットを作成したほか、市政だよりでは政宗公の人物像や伊達な文化などをテーマにしたコラムも掲載し、市民の皆さまの機運盛り上げに努めました。



様々な関係機関とも連携し、歴史体験イベントや伊達武将隊を主体とした生誕祭も実施しました。歴史体験イベントは仙台藩以来の文化を感じられるまち歩きや体験イベントを計14回開催、生誕祭では県外からも多くの方に参加いただき、生誕450年を広くPRすることができました。8～9月に市役所本庁舎で開催したパネル展示の期間中には武将隊の支倉常長による歴史講座も開催しました。



10月には仙台市博物館で特別展「伊達政宗」が2ヶ月間にわたり開催されました。約30年ぶりとなる政宗公に特化した特別展に足を運んでいただくため、本市では積極的にプロモーションを実施しました。訴求力が高い雑誌等への広告出稿のほか、450年を機により多くの人に仙台を訪れていただこうと、本市の観光アンバサダーである羽生結弦選手を起用した新しい観光プロモーションポスターを製作しました。羽生選手に袴の最高峰ブランドである仙台平を身に付けていただいたことで、伊達な文化の奥深さを感じられるポスターとなり、仙台の歴史や伝統を効果的に伝えることができました。また、首都圏の百貨店と年間を通して様々な連携企画を実施しました。そして、450年記念の様々な取り組みを紹介する特設ウェブサイトを開設し、広く情報発信に努めました。



一年にわたる様々な記念事業を通し、政宗公という偉大な存在に多方面から光が当てられ、これまで以上に多くの皆さまに政宗公や伊達な文化の魅力を知っていただくことができました。この450年をひとつの節目として、これからも多くの方に仙台を訪れていただけるよう歴史に着目した観光振興に取り組んでまいります。

仙台市博物館における伊達政宗関連の特別展及び展示

【仙台市博物館】

◆常設展での年間を通じた伊達政宗特集展示

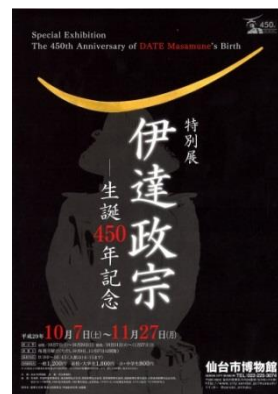
仙台市博物館では伊達政宗生誕450年にあたり、年間を通じて記念事業を実施しました。常設展では「伊達政宗文書特集」(春)、「伊達政宗と城」(夏)、「伊達政宗と家臣たち」(秋冬)と季節ごとにテーマを設定し、例年より政宗関連の資料を多く展示しました。

◆伊達政宗関連で過去最大規模の特別展「伊達政宗—生誕450年記念」

当館における伊達政宗生誕450年記念事業のメインイベントとして、平成29年10月7日(土)から11月27日(月)までの期間に特別展「伊達政宗—生誕450年記念」を開催しました。

本特別展は、館蔵資料はもとより国内各地にのこる多彩な関連資料から、伊達政宗の生涯や政治・外交・文化など様々な足跡について紹介するものです。当館で伊達政宗に関する特別展は30年ぶりであり、過去最大の規模での開催となりました。

展示された資料は、この特別展のために各地から借用した資料を含め236件(会期中に展示替えを実施)に及びました。資料や図録などの解説には最新の調査・研究成果を盛り込み、従来のイメージにとどまらない新たな視点も取り入れ伊達政宗の人物像に迫る特別展として話題を呼びました。



特別展「伊達政宗—生誕450年記念」
平成29年10月7日(土)～11月27日(月)
主催：仙台市博物館、共催：河北新報社

◆特別展及び関連イベントへの反響

特別展の事前広報はチラシ・ポスター等のほか、仙台市観光課とタイアップしてJR東日本発行の新幹線車内サービス誌『トランヴェール』8月号に1ページ広告を掲載するなど、県外の方へのPRにも力を入れました。その効果もあり、宮城県内をはじめ他県からも多くの方が来館し、観覧者数は予想を大きく上回る42,525人に達しました。展覧会図録も売れ行きが好調だったため、会期中で異例の増刷を行いました。

特別展の会期中には、関連イベントも実施して政宗生誕450年の記念年の機運を盛り上げました。講演会等の事前申込制のイベントには毎回定員を上回る応募があり、学校や各種団体などを対象とした展示解説も多くの方が参加するなど、政宗に対する関心の高さがうかがえました。

＜関連イベント(市民向けのを抜粋)＞

(1) 記念講演会

10月7日(土)及び10月28日(土)の2回開催。

(2) しろ・まち講座

11月11日(土)に開催。

※講演会、しろ・まち講座の講師及び内容は後述の「伊達政宗に関する講座」を参照ください。

(3) パネル展「マンガ『独眼竜政宗』～^{うそとまこと}虚実の皮膜に～」

10月7日(土)～11月27日(月)の期間に博物館ギャラリーで開催(入場無料)。河北新報に連載中のマンガ『独眼竜政宗』(作者：千葉真弓氏)の原画やパネル、映像等を展示。

(4) 伊達武将隊とのコラボイベント「政宗生誕450年！」

11月5日(日)に開催。特別展を観て答えるクイズラリーと伊達武将隊のステージイベントを実施。定員200人に対し219人の応募があり、186人参加

(5) 学校・各種団体への展示解説…51件 合計2,531人参加

※ここでは、仙台市博物館の学術研究機関の立場から、歴史上の人名に敬称を付けていません



上：伊達政宗、伊達成実、片倉重綱の具足が30年ぶりに一堂に会した展示
下：特別展会場内ようす

伊達政宗に関する講座の開催と印刷物の作成

◆伊達政宗に関するさまざまな講座の開催

当館では、伊達政宗生誕450年を機に、市民を対象にさまざまな形で伊達政宗を紹介する講座を実施しました。主なものは下記のとおりです（※タイトル（講師）／会場／参加者の順で提示）。そのほかにも、市民センターなどの社会教育施設や市民団体の要望などに対応して、伊達政宗に関する講座を博物館内外で多数実施しました。

- ・ 2月11日（土） 東北工業大学との連携事業「まちなか博物館講座」
「伊達政宗と北の関ヶ原」（佐藤健治 当館職員）／東北工業大学一番町ロビー／230人
- ・ 6月4日（日） 当館主催「しろ・まち講座」
「伊達政宗の生涯」（明石治郎・佐々木徹 当館職員）／仙台市博物館／194人
- ・ 7月17日（月） 仙台商工会議所との共催事業「第35回せんだい市史講座 伊達政宗の国づくりに学ぶ」
「伊達政宗と百姓・村」（籠橋俊光 東北大学准教授）、「仙台藩の家臣団」（菅原美咲 当館職員）／仙台商工会議所／137人
- ・ 7月20日（木）、同26日（水）仙台市博物館・仙台市民図書館連携講座
「エピソードからみた政宗の人物像」（菅野正道 当館職員、星博文 仙台市民図書館職員）／せんだいメディアテーク、泉図書館／計168人
- ・ 8月20日（日） 東北工業大学との連携事業「まちなか博物館講座」
「伊達政宗の領国支配と寺社政策」（菅野正道 当館職員）／東北工業大学一番町ロビー／161人
- ・ 9月24日（日） 東北工業大学との連携事業「まちなか博物館講座」
「政宗の城下町建設」（水野沙織 当館職員）／東北工業大学一番町ロビー／164人
- ・ 10月7日（土） 特別展記念講演会①
「伊達政宗と豊臣秀吉」（池上裕子 成蹊大学名誉教授）／仙台市博物館／242人
- ・ 10月28日（土） 特別展記念講演会②
「伊達政宗とその親族」（遠藤ゆり子 淑徳大学准教授）、「伊達政宗と奥羽の大名たち」（高橋充 福島県立博物館学芸員）／仙台市博物館／287人
- ・ 11月11日（土） 特別展関連「しろ・まち講座」
「見どころ資料からみた伊達政宗」（佐々木徹 当館職員）、「伊達政宗のファッション」（高橋あけみ 当館職員）／仙台市博物館／223人

◆伊達政宗に関する出版物の作成

当館では、伊達政宗に関する多くの研究の蓄積があり、また関連資料多数を所蔵していることから、それらを活用し、伊達政宗に関する情報を提供したり、市民や子供たちの学習に寄与することを目的とした印刷物を下記のように制作しました。また、仙台商工会議所の機関誌『飛翔』に「生誕450年 伊達政宗の足跡を訪ねて」と題した連載を12回掲載し、館職員が交代で伊達政宗の業績や関連資料の紹介を行いました。

- ・『仙台市博物館収蔵資料図録⑨ 伊達政宗文書』 平成29年3月31日発行 A4変形判 128頁
- ・『よくわかる！ 伊達政宗』 平成29年7月1日発行 A4判 カラー 20頁
※ 19,000冊を市内小学校5、6年生に無償配布しました
- ・『市史せんだい vol.27』 平成29年9月30日発行 A5判 128頁
※ 「特集 伊達政宗 生誕四五〇年」とし、論文3、研究ノート1、資料紹介1を掲載
- ・『「特別展 伊達政宗 一生誕450年記念」図録』 平成29年10月7日発行 A4判 240頁
※ 初版2,000冊が完売し、増刷しました。

※ここでは、仙台市博物館の学術研究機関の立場から、歴史上の人名に敬称を付けていません

伊達家の歴史・文化を学び、将来のまちづくりに生かそう！

【仙台商工会議所】

仙台商工会議所では、藩祖伊達政宗公の生誕450年の節目に、行政と民間が一体となって記念の年にふさわしい盛り上げを図りながら、政宗公の偉業を改めて見つめ直し、今後のまちづくりにつなげていくことを目的に各種事業を実施しました。今後も、伊達ブランドの再発掘や磨き上げを通じた継続的なプロモーション活動を行い、仙台・宮城のシティセールス強化につなげていきます。

政宗公の国づくりに学ぶ！生誕450年記念講座を開催

文化観光部会は仙台市博物館と共催で記念講座を7月17日に開催しました（約140人出席）。

講師の一人、仙台市博物館学芸員の菅原美咲氏は『仙台藩と家臣団』について解説。「伊達家の場合、政宗の時代に登用された家臣が群を抜いて多い。政宗は領地拡大の戦に明け暮れながらも、治世に欠かせない人材確保も怠らない緻密な人間だった」と当時の文献をもとに歴史を読み解きました。

続いて、東北大学大学院准教授の籠橋俊光氏が『伊達政宗と百姓・村』について解説。「秀吉の天下統一以降、政宗は荒れ地の開発に生涯を捧げたといってもいいほど。開墾した田畑の年貢の軽減策を政宗自らが提案するほど、家臣を多く抱える仙台藩にとって、極めて深刻な問題だったことが分かる」と米どころ仙台・宮城の由来を紹介しました。

※ここでは、仙台市博物館の学術研究機関の立場から、歴史上の人名に敬称を付けていません



伊達家が紡ぐ歴史・文化の重みを体感！「宇和島」視察会を実施

文化観光部会は、政宗公の長男・秀宗公が宇和島藩祖となった歴史が縁で仙台市と姉妹都市を提携する愛媛県宇和島市の視察会を平成29年9月7日から9日にかけて実施（12人参加）。伊達秀宗公の墓所・龍華山等覚寺をはじめ、伊達家ゆかりの寺社仏閣や宇和島城、数多くの貴重な文化財を公開する伊達博物館を視察したほか、宇和島伊達家十三代当主の伊達宗信氏や宇和島商工会議所の廣瀬了会頭などとの懇親を深めました。

宇和島でも、伊達家ゆかりの歴史や文化が大切に受け継がれてきたことを肌で感じ、今後も仙台と宇和島の歴史的な交流を見つめ直し、観光を含めた経済的な交流を活発に行っていくことが、互いの地域活性化につながっていくことを改めて感じる視察会となりました。



政宗公の復興への熱い思いを表現！ミュージカル「ジパング青春期」観劇会開催

劇団わらび座ミュージカル「ジパング青春記」仙台公演（仙台商工会議所共催）が1月20日から2月9日にかけて行われました。本作はサン・ファン・パウティスタ号の造船と遣欧使節団の出航は、政宗公による慶長三陸大地震の復興策であったという説に基づいて、津波で家族を失った主人公の夢や葛藤を追う姿を描いたものです。

当所では、政宗公生誕450年記念事業として、2月3日にトークショー付き観劇会を開催し、約400人の皆さんに作品をお楽しみいただきました。終演後のトークショーには、主人公リウタ役の松本旭平さん（仙台市青葉区出身）らが登場。「この公演が復興の一助となり、故郷への恩返しにつながればうれしい」と作品にかかる思いを熱く語りました。



月報「飛翔」における「生誕450年 伊達政宗の生涯をたずねて」の連載と特集記事の掲載

毎月発行している仙台商工会議所会員向け月報誌「飛翔」で、平成29年1月号から12月号まで全12回、仙台市博物館の寄稿により、「生誕450年 伊達政宗の生涯をたずねて」を連載しました。5月号、12月号では本コーナーとは別に特集記事を掲載。仙台市博物館館長の遠藤俊行氏、尚綱学院大学総合人間科学部表現文化学科教授の千葉正樹氏の解説により、伊達政宗公の人物像に迫るとともに、その功績や街づくりについての考え方を紹介しました。



仙台藩志会で生誕450年記念事業を行う

【仙台藩志会】

仙台藩志会にとって、平成29年は仙台藩志会創立60周年と伊達政宗公生誕450年が重なる喜ばしい年となりました。

とりわけ生誕450年においては、9月9日に記念式典、記念講演会、記念祝賀会を行うことに決め、それに向けて記念事業実行委員会を組織して取り組みました。

9月9日実施の内容

第一部の伊達政宗公生誕450年記念式典では、仙台藩志会会長の伊達宗行から式辞を述べました。

祝辞は、伊達家18代当主・伊達泰宗様、宮城県知事代理副知事・河端章好様、仙台市長・郡和子様から意義ある年を祝っていただきました。

この式典には、800名の方々にご出席いただきました。

第二部の記念講演では、二つの講演をいただきました。

特別公演は、「父輝宗・母義姫と政宗」と題して、仙台藩志会顧問・元仙台市博物館館長の佐藤憲一様からいただきました。

記念講演は、「現代に伝える（伊達なり）の心」と題して、仙台藩志会総裁・伊達家18代当主の伊達泰宗様からいただきました。

講演会は、案内チラシや会員からの呼びかけもあり、会場いっぱいの960名の方々においでいただき、皆さん熱心に聞いていただき、興味ある内容としっかりとしたお話で出席者から大変好評でした。

第三部の記念祝賀会は、初めに祝舞・日本舞踊「千代の寿」が、直派若柳流理事・若柳梅京さんによって舞われ、祝賀会が始まりました。

開会挨拶は、佐藤久一郎記念事業実行委員長・仙台藩志会副会長が行いました。

祝辞を、パネルなどの贈呈も含めて米沢市舘山寺住職・山口卓道様、宇和島市長・石橋寛久様、仙台市議会議長・岡部恒司様の三名の方々からいただきました。

乾杯は、大崎八幡宮宮司・小野目博昭様によって行われ、その後各界からご出席の皆様の間でなごやかに交流が行われました。

仙台藩志会のこれまでの各界との交流もあり幅広い皆様にご出席いただき、今後の藩志会の発展にも寄与するものとなりました。



「Kappo 仙台闊歩」連載・特集と別冊「大人旅」

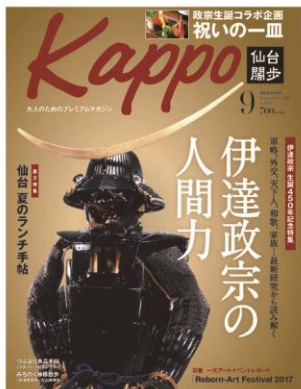
【株式会社プレスアート】

株式会社プレスアートでは、伊達政宗公生誕450年記念の独自企画として、大人のプレミアムマガジン「Kappo 仙台闊歩」2017年4月5日発売号より連載を開始。「政宗が目指したもの～450年目の再検証」と題して、全6回で郷土史家・菅野正道氏に執筆いただきました。「城づくり・町づくり」「家臣団」「伊達文化」などテーマは多岐にわたり、最新の知見を踏まえて、歴史資料から読み解いたものです。また、連動企画としてお茶とお菓子つきのトークイベント「歴史カフェ」も行いました。仕事帰りにも参加できるように、平日夜に開催。毎回、連載と同じテーマを資料写真や図解つきでわかりやすく説明し、一般読者にも好評でした。

さらに8月5日発売号では特集として「伊達政宗の人間力」を企画。歴史の専門家へのインタビュー、寄稿を通して、知っているようで意外と知らない政宗公の人間性に迫りました。仙台の町づくりに始まり、領国治世、天下人との関係、諸大名への贈り物、臥龍梅、和歌と漢詩、デザイン、近親・側近との関係性、家庭人としての素顔と、それぞれの側面をクローズアップ。「戦よりも領地の繁栄を第一に考えた藩経営を行う」「細やかな気遣いと冷静な判断力で、幾多の危機をかわしてきた」など、従来の「天下を狙い続けた、勇猛果敢で大胆な戦国武将」というイメージに収まらない新たな政宗像を提示しました。関連企画「祝いの一皿」では、政宗公の生誕を祝した料理やお菓子を仙台市内の飲食店・菓子店7店舗にオリジナルで創作を依頼。史料に記載が残っている食材を使った料理や政宗公をイメージしたお菓子を、2ヶ月限定で提供いただきました。

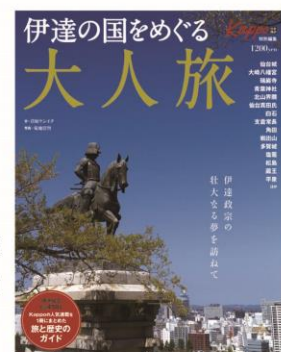
また、5月10日にはKappo 臨時増刊「伊達の国をめぐる大人旅」を発行。平泉を含む「旧仙台藩」エリアを対象に、歴史と文化をわかりやすい文章と美しいビジュアルで綴るガイドブックとして、歴史ファンに好評でした。政宗公の生涯と領土の変遷を照らし合わせた年表や「仙台真田氏」「支倉常長」といった周辺人物の紹介も行っています。江戸時代以前の歴史を踏まえた内容もあり、政宗公を入口に、地元の魅力を新たに発見する一助となりました。

Kappo vol.89 (2017.8.5 発行) 特集「伊達政宗の人間力」



Kappo vol.86 (2017.4.5 発行) より
集中連載「政宗が目指したもの
～450年目の再検証～」
第1回 (全6回)

Kappo 特別編集
「伊達の国をめぐる大人旅」
(2017.5.10 発行)



政宗公
生誕
450年

政宗公の目指した豊かな国づくりを探求！

【宮城県民共済】

地域情報誌「みやぎスマイルプロジェクト」にて「伊達政宗公生誕450年記念」特集号を発行。

「現代に受け継がれる政宗公の功績」を特集

特別対談 宮城学院女子大学学長 平川新教授×名護ひと美さん

「知っているようで知らない現代に通じる政宗公の想いを読み解く」

[2017. 4. 16 FM仙台『宮城の歴史さんぽ道』特別編
(55分)で放送]

生誕450年を迎えた仙台藩祖伊達政宗公が現代の仙台・宮城に大きな影響を与えていることを紹介した。

【2017. 4. 1発行 発行部数60万部】



「サン・ファン・パウティスタ号は政宗公の震災復興事業」を特集

特別対談 元・仙台市博物館館長 佐藤憲一氏×名護ひと美さん

「伊達政宗毒殺未遂事件と弟小次郎手討ち事件の真相」

[2017. 10. 15 FM仙台『宮城の歴史さんぽ道』特別編
(55分)で放送]

政宗公の偉業の一つのサン・ファン・パウティスタ号の出帆。実はこの出帆は政宗公の震災復興事業だったとされる新たな学説を紹介。

また政宗公の生涯で一番の闇の部分とされた「弟小次郎手討ち事件の真相」に迫った。【2017. 10. 1発行 発行部数60万部】



※2018年1月20日から約三週間に亘り、電力ホールで開催されたわらび座ミュージカル「ジパング青春記」。サン・ファン・パウティスタ号の出帆と震災復興をテーマにしたこのイベントに県民共済が協賛するとともに、加入者200名を抽選で招待。わらび座とタイアップした地域の歴史と文化支援活動は大好評を博した。

政宗公
生誕
450年

政宗公の隠れた魅力を再発見！

【宮城県民共済】

ラジオ ミニ番組「宮城の歴史さんぽ道」で政宗公に係る歴史秘話等を紹介。

「伊達政宗公を支えた四人の姫の物語」

[2017. 4. 7～毎週金曜日16:55～17:00 FM仙台・全13回
放送]

幼少年時代の政宗を支えた祖母の「久保姫」、政宗毒殺未遂事件の汚名を被った母の「義姫」、人質としての終生を送った正室の「愛姫」、徳川との政略結婚により悲劇の生涯となった長女の「五郎八姫」。時代の波に翻弄されながらも政宗公をしっかりと支えた四人の姫の生涯を地元有識者の話を交え紹介した。



「伊達政宗公の慶長遣欧使節に託した夢」

[2017. 10. 6～毎週金曜日16:55～17:00 FM仙台・全13回
放送]

政宗公の功績で一番の光の部分といわれた慶長遣欧使節のヨーロッパへの派遣。サン・ファン・パウティスタ号の建造の目的や支倉常長率いる慶長遣欧使節の出帆に纏わる歴史秘話等について紹介した。





政宗公まつりでお祝い！

【政宗公まつり協賛会】

奥州の覇者伊達政宗公は、仙台青葉城へ移る前の12年間、血気盛んな青年時代を岩出山城で過ごしました。

昭和39年、仙台青葉城に鎮座していた「政宗公平和像」が岩出山城山公園に移されたことを契機に、藩祖伊達政宗公の遺徳を偲び、その業績を顕彰し、この歴史を永く後世に伝えることを趣旨に始められたのが「政宗公まつり」です。

文禄元年、政宗公26歳の春のことでした。政宗公は、3,000名の大勢を率いて岩出山を出発し、京都へ上洛しました。

この時、特に京都の民衆の目を引いたのが伊達軍の豪華ないでたちであったといわれています。紺地に金の「日の丸」の、のぼり30本を押し立て、足軽たちは三尺もの金のとんがり笠をかぶり、黒漆に金星の鎧を身にまもっていました。騎馬武者は黒地に金の半月のついた母衣に、ひょうや虎、熊や孔雀の馬鎧をのせ、大小の太刀は黄金の装という奇抜ないでたちでした。

その派手ないでたちで京の都びとを“伊達者”と驚かせ、賞賛の声を誘った武者行列の再現です。

今年度は政宗公生誕450年を記念して第2回甲冑コスプレ世界大会の開催、岩出山伊達なスタンプラリーの実施や“岩出山武将隊「伊達者」”を結成し、年間を通して各種お祭りやイベントへ出陣し、伊達な小京都岩出山のPRを官民一体となっていくことができました。

ぜひ、毎年9月の第2日曜日は政宗公まつりへお越しください！



伊達なクニづくりへ！

【大崎市】

伊達政宗公の魅力と功績は、若くして奥州の覇者となり、時局を冷静に悟り、仙台藩を全国きつての雄藩にしたこと。河川改修や新田開発、貞山運河や港を整え、豊かな国づくりに力を注いだこと。海外にも目を向け、「慶長遣欧使節」をスペイン・ローマに派遣したことなどです。

また、時代を代表する文化人で、和歌や書、茶道、香道などをこよなく愛したこと。派手な軍装を率いて京の人々を驚かせ「伊達者」の語源にもなった*こともあげられます。

さらに、「戦国一のグルメ武将」とも評され、仙台味噌や凍り豆腐、納豆、ずんだ餅、おせち料理などの食文化を発展させたこと等々です。
※諸説あります

大崎市岩出山は政宗公が仙台青葉城へ入部するまでの12年間、青年時代を過ごした地です。「伊達な小京都」岩出山では、城山公園、旧有備館、内川、実相寺、政宗公立像・騎馬像など政宗公にまつわる足跡を数多く探訪できます。

近年、世界かんがい施設遺産に認定された「内川」は約400年前に岩出山城の防備とかんがいを目的に政宗公によって開削された人工の河川です。その内川を含めた「大崎耕土」が政宗公生誕450年の記念の年に、「持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム」が評価され、東北では初の世界農業遺産に認定されました。

政宗公が築いた「しなやかな水管理」の知恵を活かした米づくりの文化と自然環境を継承することにより、豊饒の大地を形成してきました。今回の認定は、先人から受け継いだ知恵を次世代に引き継ぐ出発点としたいと考えております。

450年の時を経て未だ不滅の伊達スピリッツを抱き「温故創新」政宗公の都づくりを大崎のクニづくりに活かしてまいります！





政宗公の雄姿 生協カタログに登場！

【生活協同組合連合会 コープ東北サンネット事業連合】

私ども生協の共同購入は、東北6県約48万人の皆さんにご利用いただいている商品配達事業です。週に一度お配りするカタログから欲しい商品を選んでいただき、ご自宅や決められた拠点にお届けしています。

カタログ事業は店舗販売とは異なり、お客様が現物を手に取って確認することが出来ないデメリットがある一方で、開封した後の中身の画像や、調理した画像、イメージを膨らませるマークなどを添えてご案内することで、瞬時に商品を理解頂けるというメリットがあります。そんな折、伊達政宗公生誕450年に際して、ロゴマークが使用できるとの情報が酒類担当から提案され、確認したところ重厚でメリハリの効いたデザインでした。偶然にも、宮城県ゆかりの酒造メーカーで、政宗公の名を冠した2商品を取り扱う計画があったため、ロゴマークと一緒にご案内することが出来ました。

政宗公の雄姿を添えてカタログに掲載したことで、ご注文実績は大きく伸長しました。単にこの商品を嗜好されていた方々だけでなく、地場産品にご興味がある方などにも、幅広くご購入のきっかけとして受け入れていただいたのではと推察いたしております。

ロゴマークの使用許可をいただきましてありがとうございました。この取り組みをきっかけに、今後多くの方々が政宗公の異業に興味を持って接していただく事を願っております。



伊達政宗と震災復興を描く和製ミュージカル

【劇団わらび座】

劇団わらび座は、伊達政宗公を題材にしたミュージカル「ジパング青春記～慶長遣欧使節団出帆～」を実施致しました。これは400年前（1613年）に支倉常長が海外へと向けて旅立ったその2年前、東日本大震災と同規模の震災が宮城県を襲っていたという史実から発想を得たミュージカルです。一説では、伊達政宗公は、海外との交易による「復興」を最大のミッションとして、使節団を派遣させたのではないかとされており。この新たな視点から慶長遣欧使節団ミュージカルを描くことで、伊達政宗公と支倉常長の想いを現代に引き継ぎ、「今」を生きる子どもたちへの勇気と希望につなげていきたいと考えました。



今回のミュージカルの上演にあたり、官民一体となる組織「みやぎの子どもたちをミュージカル『支倉常長』に招待する実行委員会」が立ち上がりました。この実行委員会は、舞台を通して、伊達政宗公・支倉常長の偉業を伝え、子どもたちへの郷土の誇り・夢・希望を育み、宮城の未来を創り上げる担い手として育てたいという考えのもと結成されました。実行委員会の呼びかけにより、県内企業から多くのご支援を賜り、同ミュージカルに宮城県内の小中学生約1万人が、無料で招待されました。

ミュージカル「ジパング青春記」は2018年1月20日（土）～2月9日（金）に電力ホールで全26回上演し、子どもたちを含め約2万人の方々に観劇していただきました。

舞台を観劇された方からは「400年前にも東日本大震災と同規模の地震があったなんて知らなかった」「伊達政宗公たちの想いを強く感じた」など多くの感動のお声をいただき、伊達政宗公生誕450年を「文化」の面で盛り上げていくことができました。

伊達氏ルーツと桑折宿探索ツアー

【桑折町商工会】

福島県の中通り北部に位置する桑折町周辺には伊達氏が築城した西山城をはじめ、初代朝宗公墓所や伊達五山など伊達氏にまつわる魅力ある歴史的遺産があります。また、日本三大鉱山の半田銀山、奥州・羽州街道の分岐点にある宿場町、旧伊達郡役所など、先人たちによって築き上げられた歴史的資源が数多く残されています。

本年は、伊達政宗公生誕450年を記念し、県内外から多くの方々が訪れる機会を作り、桑折町を知って頂くことにより交流人口の拡大を図ると共に町特産品等のPRにより産業振興を図るため、福島県の補助金を受けて「伊達氏ルーツと桑折宿探索ツアー」事業（3コース：伊達氏本城 西山城と伊達五山・伊達氏ゆかりの史跡めぐり・奥州街道と羽州街道の追分 桑折宿探索）を実施しました。

キャンセル待ちをしていただくほど申込が多く、参加者（129名）の6割以上の方が宮城県からお見えになりました。感謝のメッセージが多く寄せられるなど、いずれのコースも参加者から評判が良く、郷土料理によるおもてなしでは、参加者とスタッフの会話が弾み交流を深めることが出来ました。

桑折町商工会は、行政等の支援を受けながら引き続き同事業を実施し“伊達家発祥の地、桑折”をPRして参ります。



区民まつり 物産販売・観光案内で復興応援

【さいたま市緑区区民まつり実行委員会】

埼玉県さいたま市緑区の区民まつりは、毎年10月に開催している区と区民が作るイベントです。区民まつりでは、2011年3月11日の東日本大震災の被災地復興を目的に2011年から震災復興応援コーナーを設け、宮城県と山形県2県の特設ブースを用意し、宮城県からは、仙台ソフトウェアセンターの協力で加美町にある事業再開企業の物産販売と宮城県観光案内を行ってきています。震災復興コーナーは区民まつりでも特に人気が高い一つです。今年は伊達政宗公生誕450年にあたり、宮城県の観光パンフレットの配布で使用するクラフト製手提げ袋表面に、伊達政宗公生誕450年ロゴを、裏面には従来から使用している復興むすび丸をそれぞれ使用し配布しました。観光案内ブースに多くの区民の方がお立ち寄りいただき、「観光案内パンフレットを参考に宮城県の観光に行ってきました。」「復興の状況はいかがですか。」等うれしい声を聞くことができました。伊達政宗公生誕450年に高い関心を示していただき、これからでも間に合う観光地や行事について多くの問い合わせをいただき、ロゴのおかげと感じています。

今年は、東日本大震災義援金箱の隣に、熊本地震義援金箱も設置し、区民の気持ちを届けました。



よし！宮城へ行こう

【狭山ケーブルテレビ株式会社】

「埼玉県内における宮城の魅力発信事業」として、埼玉県内ケーブルテレビ局、150万視聴世帯向けに15分間の番組「よし！宮城へ行こう」伊達政宗公生誕450年編「伊達な文化にふれる旅」、復興・観光再発見編「おいしい宮城にふれる旅」。そして、東京池袋にある宮城県のアンテナショップ「宮城プラザ」の30秒CMを制作し、2017年5月・6月の2ヶ月間放送しました。

埼玉県には東北新幹線の大宮駅もあり、アンテナショップのある池袋は、埼玉県内サラリーマンの通勤路でもあり、宮城県は埼玉県民にとって身近に感じられる県でもあります。

伊達政宗公生誕450年編では、伊達武将隊によるおもてなしから始まり、青葉城本丸会館館長のお話では、政宗公の仙台城そして城下町仙台に対する想いを知り、文化遺産群からは、政宗公の偉業を知ることができました。各所の案内人の方たちからは、興味深いお話を頂戴し、繰り返し、仙台の地を訪れたいと思わせる内容をご紹介することができました。

復興・観光再発見編「おいしい宮城にふれる旅」では、特産品にスポットをあて体験旅行として女川、石巻をまわりました。東日本大震災からの復興途中の海岸沿い、津波被害の痕跡は、震災6年たってもその悲しさを伝えていました。笹かまを生産する「高政」では、震災直後、おばあ様が故郷の狭山茶を飲み涙をこぼし喜ばれたというお話や経営者の力強い再建への想いを聞きました。

石巻の「湊水産」では、たらこづくりの体験を通して、災害時にラップ1枚で食べることのできる「おにぎり」の有難さを知りました。

そして、魚種が豊富といわれる石巻の「宝寿司」では、店主から多くの人たちの励ましに感謝するといった話を聞きました。日和山から石巻市街を望みながら、宮城県の物産品にまつわるストーリーに想いをはせながら、私たちにできる復興のお手伝いとして観光があることを知りました。次回はぜひ、山間部の農業との関わりも番組にしたいと思っています。



「歴史総合イベント 桃山文化やしき」開催

【公益財団法人 仙台市市民文化事業団】

日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）では、2月3日(土)と4日(日)の2日間、「伊達政宗生誕450年記念 歴史総合イベント 桃山文化やしき」を開催しました。政宗公の生きた桃山時代の文化を、ファッション・食・アートなどの切り口から紹介する本イベントには、延べ2,336名が来場し、多くの市民が政宗公の育んだ多彩な伊達文化に親しみました。



仙台藩茶道を今に伝える石州流清水派による本格的な茶会や、仙台の郷土料理には欠かせない仙台みその仕込みを実際に体験するワークショップなどは、現代に息づく伊達文化をより身近に感じることができる貴重な機会となりました。

また、ステージイベントでは柳生心眼流兵法演武や、金春流の能の謡と仕舞をわかりやすい解説つきで紹介し、歴史や伝統文化に日常的に親しんでいる方以外にも好評をいただきました。

イベントのハイライトである桃山ファッションショーでは、一般市民からの公募により選ばれた10名のモデルがステージに上がり、小袖や打掛などの美しい時代衣装を身にまといました。

この他にも、市民参加型の体験イベントを多数実施し、ホール内のいたるところで、政宗公の時代の文化にひたっていたいただける2日間となりました。



川内キャンパスのむかしむかし I

【東北大学 埋蔵文化財調査室】

東北大学川内キャンパスは、南側が仙台城跡二の丸、北側が武家屋敷地区として埋蔵文化財（遺跡）として登録されています。そのため、埋蔵文化財調査室では開発にあたっては遺跡保護を最優先しつつ、やむを得ない場合に限り発掘調査を実施しています。

今回、伊達政宗公生誕450周年と本学110周年の両方を記念し、「川内キャンパスのむかしむかし I～仙台城跡二の丸～」と題して、仙台城跡二の丸地区（現：川内南キャンパス）から出土した遺物を展示し、その解説パネル等を掲示することにより、川内南キャンパスの歴史の変遷をわかりやすく説明することを目的としました。

二の丸から出土した遺物には、食事をする際に用いる陶磁器などの器、すり鉢や焼き塩壺、桶等の道具類、煙管、玩具としての土人形、紅皿などの化粧道具等、日常生活で使用するような品物が多数あります。また、瓦など建物に関連する遺物もあります。さらに、二の丸に品物を納めた際に

付けられる木簡等もあり、当時の政治・社会的状況を読み取ることもできます。このような様々な遺物を通じて、過去の様子を学ぶことができます。

左：志野焼南蛮人人形
中央：土人形（猫）
右：中国産磁器



秋季展「福島家がのこした伊達な文化」

【社会福祉法人共生福祉会 福島美術館】

仙台藩祖・伊達政宗公は、書に優れ、和歌を好み、茶の湯を藩内に積極的に取り入れました。これらは、政宗公以降の歴代の藩主や家臣にも継承され、仙台の文化の礎として根付いています。政宗公以降の歴代藩主や家臣らの作品を中心に、福島家に収められている仙台藩伊達家ゆかりの貴重な作品群を展覧会「伊達政宗生誕450年記念 福島家がのこした伊達な文化」にて、ご紹介をしました。

明治から昭和初期にかけて仙台の政財界で活躍し、仙台の文化を支援した素封家・福島禎蔵（1890～1979）は、戦後の混乱期に伊達家の支援をした一人です。そのため、多くの仙台藩伊達家旧蔵品の作品が収められました。福島家では、伊達家が大切に継承した美術文化を散逸させず、多くの市民に広く公開することを目的とし、今日まで作品の保管・公開を行っています。中でも、22歳の若き政宗公が、家臣を伴って当世の茶の湯（利休の侘茶）を学ぼうとする「鮎貝日傾齋宛書状（茶の湯の稽古のこと）」

（天正16年）は、政宗公が茶の湯の文化を仙台へもたらしたことがわかる貴重な作品です。書状を掛け軸に改め、茶掛けとして今日まで残されたのは、政宗公への敬意が払われているのと同時に、仙台の文化に根付く「伊達な文化」の一端を垣間見ることができる作品です。

また、展覧会開催中には、宮城県内外の伊達家に縁のある土地、および文化施設を紹介する「情報コーナー」を設け、「伊達政宗生誕450年記念」に関連するイベントや、伊達家の歴代藩主や家臣に因む史跡や文化施設のリーフレット類の配布を行いました。宮城県および東北、関東にある伊達家縁の地を知り、実際に足を運んで頂くことで、時代を経て脈々と紡がれてきた歴史と文化を肌で感じられるように情報提供の場とし、多くの方にご利用頂きました。



「政宗公初陣の地 小斎」戦国に思いを馳せて

【小斎振興協議会】

宮城県最南端 伊具郡丸森町小斎地区。ここは「伊達政宗公初陣の地」と伝わっており、輝宗・政宗親子が布陣されたとされる矢ノ目館跡や小斎城跡などが残っています。

小斎地区では住民自治組織「小斎振興協議会」と郷土の歴史保存・伝承に取り組む団体「小斎歴史伝承会」の共催により、平成29年11月25日（土）、地区を挙げて政宗公生誕450年記念事業を開催しました。

第1部では、元 丸森町教育長 齋藤良治先生を講師にお迎えし、歴史講演会を行ないました。

齋藤先生は、「政宗公の曾祖父・植宗公は隠居後も隠然たる力を持っており、彼の存在が伊達家と相馬家の勢力のバランスをとっていた。」と解説。「植宗公が亡くなったことで勢力のバランスが崩れ、現在の伊具郡に相馬家が攻め入り、激しい争いが起こった。このことが“政宗公初陣の地 小斎”が生まれるきっかけとなった。」と話されました。

第2部では丸山城跡・金山城跡・小斎城跡の「伊具三城」と、政宗公が初陣で陣を布いたと伝わる「矢ノ目館跡」を舞台に、「狼煙（のろし）上げ」を行いました。小斎の陣場山には狼煙が上がる瞬間を観ようと、地区内外から多くの方が見学に訪れました。

陣場山から発せられたホラ貝の合図により、小斎城跡（物見櫓）→金山城跡→丸山城跡→矢ノ目館跡と次々にのろしが上がりました。

また、丸森町観光物産振興公社が運営する「丸森“こらいん”ツアー」のツアー企画に参加されたみなさんも見学に訪れ、狼煙が上がる様子に歓声をあげていました。



みやぎ・純米酒倶楽部「穰りの宴」開催

【宮城県酒造組合】

宮城県酒造組合は、毎年秋に宮城の日本酒ファンの方々を対象に、穰りの宴という立食パーティを開催しております。宮城の酒造りの歴史には、藩祖伊達政宗公が深く関係していることから、生誕450年の記念の年に、資料を通じ参加者の皆様に広くご紹介いたしました。

時の仙台藩祖伊達政宗公は、柳生やぎゅうたじのかみむねのり但馬守宗矩の紹介により、大和国かやのもり榎森（奈良）に住んでいた又五郎という人物に、「榎森又右衛門」の姓名と十人扶助切米十両を賜り「御城内定詰御酒御用」を仰せつけ、青葉城三の丸の南に酒造蔵（政宗自らの縄張りにより立てられたといわれる）と住居を与え酒造りを始めたとされています。

榎森家は、初代又右衛門より十二代にわたって御酒御用を努め、その醸造する酒は御前酒・夏氷酒・忍冬酒・桑酒等二十数種にも及び、酒類醸造技術の向上と郷土の経済に大いに貢献したといわれております。

藩御用達酒屋の発展とともに、仙台城下では町酒屋も登場し、お互いに酒造技術を競い合う中で、宮城の酒づくりは磨かれていくことになりました。

宮城の酒造りのルーツは、藩祖伊達政宗公に深く関係し現在に至っているのです。





米沢市田んぼアート2017

【田んぼアート米づくり体験事業推進協議会】

12回目の実施となった平成29年は、初めて公募によって選出された作品「伊達政宗公生誕450年」を、5色の稲を使って描きました。5月28日の田植え体験、10月1日の稲刈り体験では多くの方に参加いただき約300名で作業を行いました。

また、期間中は多くの鑑賞者が展望台に訪れ、観光地として定着した田んぼアートを通して政宗公生誕の地である米沢をPRしました。



オリジナルミュージカル「梵天丸」上演

【米沢市教育委員会】

伊達政宗公生誕450年、舘山城跡国史跡指定を記念する事業として、戦国武将伊達政宗が生まれ育った米沢を舞台とした、オリジナルミュージカル「梵天丸」を上演しました。

誰もが知っている戦国武将 伊達政宗公が、生涯の基礎となる時期（誕生から青年期まで）を米沢で過ごした経験を通し、のちに戦国時代屈指の武将に成長する経緯を分かりやすく描いた作品となっています。

平成29年5月20日・21日の2日間2回の公演でありましたが、両日とも満員御礼の大盛況となりました。



周遊型戦国謎解き絵巻「独眼竜の軌跡」

【宮城県北部地方振興事務所】

伊達政宗公が青年期を過ごした大崎地域には、伊達氏ゆかりの社寺仏閣等の歴史資源が点在しています。それらを観光資源として活用するとともに、社寺仏閣等をあまり訪れることがない若年層を誘導することを目的に、エンターテインメントの要素を取り入れた周遊型謎解きゲームイベントが「独眼竜の軌跡」です。

「独眼竜の軌跡」は、専用パンフレットとスマートフォンがあれば誰でも遊ぶことができ、最新技術であるAR（拡張現実）、VR（仮想現実）、GPSを駆使して謎を解き進めていきます。物語は「政宗復活記」、「政宗と名所めぐり」、「景綱と名所めぐり」の3つで構成され、歴女と呼ばれる層の参加を期待して、政宗公をイケメンのキャラクターにしました。また、イベント開始日を大崎市岩出山で開催される「政宗公まつり」と合わせたことによる相乗効果も狙いました。

その結果、「独眼竜の軌跡」参加者は、普段、大崎地域を訪れることが少ない30歳代以下が6割を占めました。謎を解き進めて行く中で、大崎地域の魅力に触れ、良さを知り、今後、リピーターとして大崎地域に数多く足を運んで頂くことを期待しております。



専用モバイルサイト

政宗公
生誕
450年

企画展「政宗と登米地方」の開催

【登米市歴史博物館】

登米市歴史博物館では伊達政宗公生誕450年記念企画展として、政宗公が登米地方とどのようにかかわってきたのか、宮城に住む私たちは「伊達政宗公」をどのような人物としてとらえてきたのか、また、登米地方を治めた政宗公の家臣についても現存する各種資料を通じて紹介する「政宗と登米地方」と題した企画展を開催しました。

展示期間は平成29年10月28日から12月10日を前期、平成30年1月6日から同月28日までを後期とし、一部資料の入れ替えを行っています。展示は「郷土の偉人 伊達政宗」、葛西大崎一揆と政宗、「登米地方を治めた領主たち」で構成され、期間中の入館者数は前期が1409人、後期が1039人となっています。



政宗公
生誕
450年

企画展関連行事として講演会を開催

【登米市歴史博物館】

平成29年11月23日の講演会は企画展「政宗と登米地方」の関連行事として開催しました。講師に宮城県公文書館 公文書等専門調査員の栗原伸一郎氏をお迎えし、演題を「近代における伊達政宗の顕彰と仙台藩復権」としました。栗原先生は27名の参加者を前に、近代において伊達政宗公がどのような人物として位置づけられてきたのかを各種資料によって多角的に解説していただきました。



政宗公
生誕
450年

企画展関連行事として史跡巡りを開催

【登米市歴史博物館】

平成29年11月26日の史跡巡りは企画展「政宗と登米地方」の関連行事として開催しました。10名の参加者が博物館学芸員の解説を聞きながら葛西大崎一揆の激戦地佐沼に所在する佐沼城、西館跡、伝伊達政宗陣地跡、伊達成実陣地跡、首壇を巡りました。参加者の皆さんは遠い過去に思いを馳せながら、それぞれのペースで参加されました。



政宗公
生誕
450年

伊達政宗公生誕450年ロゴを弊社広告に

【株式会社イメージパーク】

仙台商工会議所月報「飛翔」の7月～9月号と8月に行われました平成29年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会プログラムの弊社広告に使わせていただきました。官民が一体となったの地元のPR活動に少しでも協力させていただければ、そして宮城・仙台を応援させていただくという気持ちを込めて伊達政宗公生誕450年にあたる8月3日に合わせて広告を使わせていただきました。

8月といえば仙台では七夕祭りが開催され一年で最も盛り上がる時期です。伊達政宗公生誕450年ということで更に大きな賑わいをもたらしたことと思います。

今後も地元を盛り上げるこのような企画があれば、ご協力させていただきたいと考えております。



政宗公
生誕
450年

有備館秋季企画展「岩出山城主政宗と宗泰」

【大崎市教育委員会】

伊達政宗公は、天正19年に豊臣秀吉の命令により米沢から岩出山に移り岩出山城を居城とし仙台城に移る慶長8年までの12年間、岩出山を本拠としました。この時期、城下町や街道の整備が行われ、現在の岩出山の街並みの原形が形作られ、その後の仙台藩へと続く基礎固めがされた時期でもありました。慶長8年に政宗公が仙台城に移った後、岩出山城は四男の宗泰公に与えられ、岩出山伊達家がはじまりました。企画展では、岩出山城主政宗公と宗泰公が、どのようにして「岩出山」を築きあげ、今に受け継がれているかを紹介するとともに、新たに発見された江戸滞在中の宗泰公に関わる書状から、父政宗、兄弟や各地の大名との関わりを紹介しました。



政宗公
生誕
450年

「一番搾り 仙台づくり」で、生誕450年をPR！

【キリンビール株式会社宮城支店】

キリンビール宮城支店は、宮城の旬のおいしさを引き立てる特別な一番搾り、「一番搾り 仙台づくり [仙台工場限定醸造]」の商品、カートン、6缶パックの板紙に「伊達政宗公生誕450年」ロゴをあしらひ、期間限定で発売しました。

発売時には仙台工場で、仙台伊達家十八代当主 伊達泰宗様や宮城県知事村井嘉浩様にご参加いただき、「出陣式(出荷式)」を執り行いました。「出陣式」では、加茂綱村太鼓の皆様の力強い演奏と伊達武将隊の皆様と共に、「一番搾り 仙台づくり」のトラックへの積み込みセレモニーとテープカット、そして、トラックでの出陣の様子を、ご参加いただいた皆様に見守っていただきました。



又、5月開催の「仙台・青葉祭り」では、「笑顔でカンパイ！KIRIN仙台づくり広場」で、宮城発祥のお米・ササニシキを副原料にした「一番搾り 仙台づくり」と仙台牛をはじめとしたお肉料理で宮城の美味しさを体感いただくとともに、生誕450年をPRし、さらにお中元やお歳暮の贈答品として、仙台の皆さまはもとより宮城、東北、全国の皆様に宮城の礎を築いた政宗公を広く発信いたしました。

政宗公
生誕
450年

「伊達兜」(練り切り菓子)の販売

【元祖仙台駄菓子本舗熊谷屋】

仙台市青葉区木町通二丁目(旧北鍛冶町)で元禄八年より仙台駄菓子を作り続けている元祖仙台駄菓子本舗熊谷屋です。

仙台藩祖伊達政宗公の生誕450年を記念して仙台市をはじめ県内では様々な企画が行われましたが、その盛り上げの一助となるべく弊社では伊達政宗公の兜をあしらった練り切り菓子「伊達兜」を一年間限定で製造販売いたしました。色は政宗公の陣羽織の紫をイメージし兜の筋を表し、弦月を中央にあしらいました。

戦国武将たる力強さとその中にも気品と派手さを感じる仕上がりになり、お客様からも大変好評をいただきました。通常販売している仙台・宮城観光PRキャラクターの「むすび丸」(練り切り菓子)とセットで買われるお客様も多かったです。



政宗公
生誕
450年

「上田秀人 文化講演会」を開催

【株式会社 光文社】

協力：伊達家伯記念會

2017年11月1日から1カ月間、宮城県内の98書店で開催いたしました「光文社 本屋さんへ行こう！キャンペーン」。その掉尾を飾るイベントとして、12月9日（土）に仙台市博物館ホールで、作家・上田秀人氏による文化講演会を開催いたしました。生誕450年を迎えた仙台藩祖・伊達政宗公の激動の人生を綴った歴史小説『鳳雛の夢』の文庫版刊行記念を兼ねて行われました。

第一部は、伊達家34世で現当主の伊達泰宗氏をお迎えし「子孫に伝えるべき言葉」をテーマにご講演いただきました。第二部では、上田氏に「鳳雛の夢—伊達政宗、その生涯」というテーマでお話いただきました。

本キャンペーンは、本や雑誌ともっとふれあって、本の面白さを知ってもらい、人生を豊かにしてもらいたいという趣旨で開催しました。書店店頭でのフェアのほか、文庫『鳳雛の夢』、「女性自身」をはじめとする光文社女性誌での「宮城の名産品 読者プレゼント」企画などの宣伝物にもロゴマークを使用し、「伊達政宗公生誕450年」を全国に大きくアピールいたしました。



政宗公
生誕
450年

伊達政宗公生誕450年を記念し「福祉芸能の集い」を開催

【芸能ハッスル一座】

言い伝えでは、先祖が政宗公の招へいを受けて、京都府久世郡久御山の地佐山から、神社仏閣の建築にあたり職人として仙台に来たと聞いております。

仙台藩士会の会員として青葉まつりにも参加し、現在は、政宗公を祀る青葉神社敬愛会会員で、政宗公を崇敬している一人として、一年間各行事にお祝い、袴・陣羽織を着用しての司会進行でアトラクションを披露しました。

その一つで、毎年開催しております「福祉芸能の集い」を、伊達政宗公生誕450年記念行事として開催し、プログラムにロゴを使用させていただきました。

授産施設の皆様と一緒に、芸を披露して、袴姿で司会を務め、生誕450年を祝いました。



政宗公
生誕
450年

450年目の政宗公のお力添え

【東北大学大学院医学系研究科】

第37回日本看護科学学会学術集会（JANS37）を仙台国際センターにて開催しました。

日本で最大級の看護系学会のため参加者数・スタッフ数も多く、参加者の目を引くスタッフ証の作成に頭を抱えていました。ポストからは「ありきたりのもではなく」との課題を頂戴しており、いよいよ切羽詰まってしまいました。そこに、「伊達政宗公生誕450年のデザインがよかったよ」との同僚の声が。すぐに情報を収集し、規定に沿って「仙台らしいスタッフバッチ」を作成しました。このバッチは、とても参加者の方々の目を引き、「売ってないの？」と何人もの方に声をかけられました。

用意したバッチはすべてなくなり、今私の手元には自分用の1個しか残っていません。学術集会自体も非常に盛況で、施設やアクセスの良さにお褒めの言葉をたくさんいただきました。

さすがは仙台伊達藩主伊達政宗公です。生誕450年の現代においても我々仙台市民を支えてくださいます。



政宗公
生誕
450年

企画展「政宗がサン・ファン・パウティスタ号に託した夢」

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

サン・ファン館では、伊達政宗公生誕450年を記念して、慶長使節のリーダーであった伊達政宗公をテーマとした企画展を開催しました。「伊達政宗が進めた仙台藩の国づくり」「伊達政宗と世界の出会い」という2つのテーマを設定し、政宗公がサン・ファン・パウティスタ号にどのような夢を託したのか紹介しました。

「伊達政宗が進めた仙台藩の国づくり」では、政宗公の国づくりの時期を大きく二つに分け、それぞれの主な政策についてまとめました。

「伊達政宗と『世界』の出会い」では、当時早くから西洋文化に興味を持っていた政宗公の原点となる「伊達者」精神に加え、仙台や江戸でのビスカイノやソテロら南蛮人との交流、南蛮人が見た当時の仙台藩の様子などを紹介しました。

国づくりに影響を与えた大災害「慶長大津波」についても触れ、困難に直面した政宗公の国づくりに向けた強い意志、そして現在の私たちにもつながるメッセージについて発信した企画展として開催しました。

政宗公
生誕
450年

第9回サン・ファン絵画コンクール

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

「サン・ファン絵画コンクール」は絵を描くことをきっかけとして、慶長使節派遣やサン・ファン・パウティスタ号への理解を深め、未来へ進むことの大切さを学ぶ機会となるよう、毎年開催しています。9回目となる平成29年度は、伊達政宗公生誕450年の節目に当たり、絵画作品の募集と作品展示のほか、昨年に引き続き、絵画コンクール審査委員長の画家小野寺純一先生による絵画教室の開催、特別企画として8月に小野寺純一先生の描いた作品の展示会も開催しました。

宮城県内の小中学生を対象に「夢・希望」「サン・ファン・パウティスタ」「伊達政宗・支倉常長・月浦」「世界・国際色」をテーマに、非常にバラエティに富んだ作品や表現力が優れている作品59点が集まりました。(小学校低学年の部21点、小学校高学年の部18点、中学生の部20点)

その中から特選3名(各部門1名)…低学年の部特選「サン・ファン館長賞」、高学年の部特選「石巻市長賞」、中学生の部特選「宮城県知事賞」、準特選3名(各部門1名)、入選(各部門5名)、審査員特別賞1名が選ばれ、11月23日(木・祝)にはサン・ファン館で入賞者の表彰式を行い、それに合わせて、全応募作品の作品展も平成30年1月28日(日)まで開催し、多くの来館者を楽しませてくれました。

政宗公
生誕
450年

伊達政宗生誕450年記念 第24回サン・ファン祭り

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

「サン・ファン祭り」は復元船サン・ファン・パウティスタを中核展示物とするサン・ファン館並びに石巻市サン・ファンパークを広く内外にPRし、地域活性化の一助とすることを目的としたお祭りです。復元船の進水日である5月22日を同船の誕生日として位置付け、その誕生を記念し地域住民手作りによる春の大祭典として、毎年5月下旬に開催されています。

内容としては、2つのステージを使ったステージイベント、石巻漁港内を周遊するヨット体験クルーズ、サン・ファン館内で歴史を学べるクイズラリーなど、各所でイベントを行いました。メインイベントであるステージは仙台藩志会の剣祓いから開始。地元小中学校の鼓笛隊や吹奏楽、チアリーディング、地元のバンド演奏や地域の伝統芸能である獅子風流や太鼓など、多彩なステージが展開されました。

その他、会場内では地元B級グルメや地場産品の出店、ミニSLやふわふわドームなど子ども向け遊具、川崎町の支倉常長隊や地元のゆるキャラとの会場内で触れ合いなど、多方面から楽しめるイベントとなっています。



政宗公
生誕
450年

サン・ファン歴史講座 館長と学ぶ「伊達の文化と慶長使節」

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

伊達政宗公が支倉常長を大使に選び、牡鹿半島月浦からヨーロッパに派遣した慶長使節。彼らの足跡をたどりながら、世界が永久に記憶すべきこの歴史遺産の真実に迫っていくサン・ファン館の館長講座です。

3年目に当たる今年度は、伊達政宗公生誕450年ということもあり、慶長使節の栄誉と、このプロジェクトを支え続けた伊達文化の特色をテーマと設定しました。慶長使節について豊富な知識を持つ濱田館長が5か月にわたって講座を行い、政宗公が世界を相手に発信した、この地域特有の輝かしい文化と強い精神を把握する機会として講座を開催しました。



政宗公
生誕
450年

サン・ファン・パウティスタ出帆記念イベント

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

1613年(慶長13年)、伊達政宗公の命により慶長使節を乗せ太平洋を渡った木造洋式帆船「サン・ファン・パウティスタ」の出帆記念日(10月28日)に併せ、宮城県慶長使節船ミュージアムにて各種イベントを開催しました。会場では「昔の遊び体験コーナー」として、羽子板や竹馬、独楽や鞠つき、折り紙などの慶長使節が派遣された江戸時代の遊びを再現しました。

また、復元船サン・ファン・パウティスタが建造された当時に制作され、地域の住民に親しまれてきた「サン・ファン音頭」や、地域団体による伝統芸能「はねこ踊り」の披露、地元渡波に古くから伝わる渡波獅子風流などのステージイベントを開催しました。

その他、奥州・仙台おもてなし集団「伊達武将隊」の支倉常長氏をゲストに迎えて、出帆記念トークショーを開催するなど、幅広い世代に伊達政宗公や慶長使節に関する興味や理解を深めていただくための企画を実施しました。



政宗公
生誕
450年

サン・ファン・イルミネーションツリー2017

【宮城県慶長使節船ミュージアム】

「サン・ファン・イルミネーションツリー2017」は復元船「サン・ファン・パウティスタ」の船体を約1万球の電飾とライトアップで彩る、石巻市の冬の風物詩として定着しているイベントです。夜の太平洋に黄金色の船体が浮かぶ姿は幻想的で、夜のフォトスポットとしても人気となっています。

震災以降、船体への影響などを考慮し、電飾の設置範囲を縮小していますが、石巻市内だけでなく県内においても継続事業として定着化してきたのか、様々な広報媒体で取り上げてもらえる機会が増え、例年より多くの方にご覧いただきました。

関連イベントとして12/23には「夜間特別開館～ファンタジーフェスタ2017」を開催しました。通常の点灯時間では展望棟からの観覧のみですが、この日はサン・ファン館内から復元船イルミネーションを観覧できるようにしたほか、館内では来館者に楽しんでいただけるようなクリスマスイベントを開催しました。

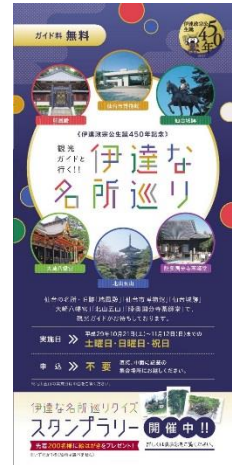




観光ガイドと行く！！伊達な名所巡りを実施

【公益財団法人 仙台観光国際協会】

仙台藩祖伊達政宗公の生誕450年の記念の年にあたり、(公財)仙台観光国際協会では、「《伊達政宗公生誕450年記念》観光ガイドと行く！！伊達な名所巡り」を実施しました。これは、政宗公に関連する仙台市内の名所・旧跡6か所(「瑞鳳殿」「仙台市博物館」「仙台城跡」「大崎八幡宮」「北山五山」「陸奥国分寺薬師堂」)で活躍する観光ボランティアガイドが各所でお客さんをガイドし、おもてなしをしたものです。また、訪れたお客様には各名所に関連するクイズを出題し、クイズ参加でスタンプを集められた方には絵はがきをプレゼントしました。



このイベントは、10～11月の土・日・祝日(計9日間)で実施し、合わせて5,000名の方々にご参加いただきました。なかには大雨の日もあり、外の施設での見学ができない日もありましたが、期間中は、仙台市博物館で特別展「伊達政宗一生誕450年記念」が開催されていたこともあり、たくさんのお客様にお楽しみいただくことができました。



仙台城跡で日の出鑑賞バスツアーを実施

【公益財団法人 仙台観光国際協会】

仙台藩祖伊達政宗公の生誕450年の記念の年にあたり、(公財)仙台観光国際協会では、平成29年8月13日(日)、20日(日)、27日(日)の3日間、「伊達武将隊と行く！仙台城跡 日の出鑑賞モニターバスツアー」を実施しました。

ツアーには伊達武将隊が同行し、政宗公も見た仙台城跡からの日の出鑑賞、観光ボランティアガイドによる説明の後、ゆりあげ港朝市に移動し、朝市での海鮮丼の食事や買い物を楽しんでいただきました。あいにくの雨の回もありましたが、県内外から各回ともに10名前後の参加者があり、お客様からは「初めて仙台城跡から日の出を見ることができて、きれいでもとても感動しました。」と感想をいただきました。今後も、仙台城跡からの朝日や夜景を、仙台の新たな魅力として発信していきたいと考えています。



食でつなぐ「伊達政宗公の世界」～「政宗公御膳」～

【株式会社日本レストランエンタプライズ】

2017年は伊達政宗公の生誕から450年の記念の年にあたります。株式会社日本レストランエンタプライズでは、仙台藩祖政宗公の業績を照らしだし、郷土の素晴らしい歴史の再発見に繋がると共に、宮城の魅力を広く全国へ発信していくことを目的に、駅弁「生誕四百五十年記念 政宗公御膳」を開発致しました。

(企画・開発・協力:一般市民団体「政宗ワールドプロジェクト」事務局 青葉城本丸会館内)

この駅弁の盛り付けは伊達家が政宗公の時代から用いた「九曜紋」をモチーフにしており、満天に輝く九つの星に合わせて、ご当地に加え日本全国の政宗公に関わる地域の九品の味覚を一つにつないでまとめ、「政宗ワールド」をお弁当の中に出現させました。

JR 東日本のキャンペーン「駅弁味の陣2017」では、新作駅弁の中で総合評価第1位の「初陣賞」を受賞致しました。



政宗公
生誕
450年

特別展 伊達政宗展～生誕四五〇年を記念して

【瑞巖寺】

慶長9年（1604年）、仙台藩祖伊達政宗公が自ら縄張りを行い、5年の歳月をかけて完成させた瑞巖寺。伊達家の菩提寺とされ、現存する本堂・御成玄関、庫裡・回廊は国宝に、御成門・中門・太鼓塀は国の重要文化財に指定されています。また、瑞巖寺には政宗公の供養のために制作された等身大の甲冑像や肖像画など、政宗公ゆかりの資料が数多く残されています。

平成29年4月28日から7月4日まで瑞巖寺境内の青龍殿（宝物館）で開催された「特別展 伊達政宗展～生誕四五〇年を記念して」では、政宗公に関する様々な資料を展示しました。多くの来場者の方々は、政宗公の勇猛な武将としての姿だけでなく、和歌や漢詩・能・茶道等にその才能を発揮し、能書家で筆まめな性格であるなど、興味深い側面を見る事ができました。

特別展の開催期間中は、政宗公が心血を注いで建設した本堂内部を彩る障壁画群の原本もあわせて展示したほか、一昨年新たに見つかった伊達政宗筆と考えられる絵画、「梅に小禽図」も特別に出陳しました。「梅に小禽図」は、現在政宗公の描いた絵画としては唯一の資料であり、生誕450年の特別展に相応しい展示内容となりました。



政宗公
生誕
450年

伊達政宗—生誕 450 年記念—

【松島町教育委員会】

仙台藩祖伊達政宗公は、松島の「顔」として知られる国宝瑞巖寺や、重要文化財五大堂をはじめとした寺社を再興するなど、松島町の歴史にも深く関わっています。そこで、本町でも6月26日に伊達家にゆかりのある観瀾亭を会場に、「伊達政宗—生誕450年記念—」イベントを開催しました。

イベントでは仙台市博物館の菅野正道氏をお招きし、講話「生誕450年 伊達政宗の国づくり」として、政宗公の人柄や初代藩主としての施策についてお話しいただきました。史料的根拠やエピソードを交えた内容に、参加者からは政宗公や仙台の歴史に関する多くの質問も出され、日ごろの疑問を解決する貴重な機会となったようでした。

また、観瀾亭松島博物館では政宗文書の特別展示・解説会も同時開催しました。間近で資料を見た参加者は、手紙の筆跡やそこから伝わる臨場感に感嘆の声をもらっていました。イベントを通じて、町民が地元・松島と政宗公との関わりの深さにふれることができたようです。

松島町教育委員会では今後も引き続き松島の歴史や文化について学ぶ講座「松島れきし再発見講座」を開催する予定です。関心のある方はぜひお問合せください。



政宗公
生誕
450年

全国やきものフェア in みやぎ

【全国やきものフェア in みやぎ事務局】

全国の窯元・作家が一堂に会し、暮らしを彩る陶磁器を展示販売する「全国やきものフェア in みやぎ」では、毎年テーマを設定し出展者作品コンテストを行っています。来場者の投票にて順位を決定します。

2017年が政宗公生誕450年であることから、「伊達なうつわ」をテーマに出展者作品コンテストを行いました。

全国の窯元・作家がイメージする「伊達」を表現した作品を62点展示し、全国から集う作り手である出展者、県内外から集う来場者に「伊達」を考えていただくきっかけとなりました。



政宗公
生誕
450年

平成29年度 宮床宝蔵春・秋の企画展にて

【宮床宝蔵】

宮床伊達家の初代・宗房は、伊達政宗公の孫に当たり、同家は江戸時代が終わるまで宮床を治めました。

伊達政宗公生誕450周年に当たり、当館では春の企画展 私の手仕事 第3弾『殿、鎧でござる！』展にて、大和町で活動するサークル「甲冑吉岡教室」の皆さんが、政宗公生誕450年と端午の節句に合わせて、ダンボールを素材として作り上げた、等身大・ミニサイズなど様々な甲冑の展示を行いました。

また、秋の企画展『伊達政宗と宮床』では、政宗公が七ツ森で行った狩りについてや、政宗公と宮床に関する伝説・民話の紹介、信楽寺に関する政宗公の文書の展示、子孫の宮床伊達家についてなど紹介いたしました。



政宗公
生誕
450年

町内で確認された政宗公の書状を初の展示公開

【村田町歴史みらい館】

村田町内で確認されています、直筆5通、右筆3通、合わせて8通の伊達政宗公の書状を展示しました。すべて個人蔵で、展示公開されるのは初めてでした。特に注目されましたのは、元和5年（1618）2月10日に角田城主石川昭光の嫡孫宗敬に嫁いだ牟宇姫へ、元服の儀礼である袖塞を祝う内容の書状です。これは、嫁ぐ少し前の年に書かれたものと推定されます。また、政宗公の側近であった馬場親成へ、下屋敷の台所に行くので事前に蜘蛛の巣を払うようにという細かな指示が書かれました、寛永元年（1624）以前の書状も注目されました。合わせて、仙台市博物館所蔵の伊達政宗から七男の宗高へ宛てた寛永3年（1626）閏4月付書状。寛永11年（1634）8月付の伊達忠宗から母親である愛姫の侍女おさ五へ宛てた書状。大正3年に宮城県庁から県内各地の小学校へ配布され、村田町内で唯一保存されていた旧村田第四小学校所蔵の「伊達政宗公御尊像」。昭和12年の小室達作「伊達政宗卿」像。村田を知行していた七男の宗高公に関する写真パネルなども展示し、多くの来館者は、興味深く観覧されていました。



政宗公
生誕
450年

当時の食事情を改めて知る！

【村田町歴史みらい館】

村田町歴史みらい館の企画展「いただきますー村田町の食ー」（期間：平成29年7月22日～12月17日）関連事業です。東北民俗の会会長佐藤敏悦氏を講師とした「村田の食・伊達の食」と題しての講演会です。江戸時代の仙南地域の料理献立。「契約講」の寄合の会食。『講帳』から見える料理の素材と値段の推移。献立の具体例とその推移。「伊達の食文化」との献立対比と提案。「村田の酒」の伝承と現在、という6項目に分けた内容でパワーポイントを使って講演されました。特に、村田町中心部の豪商達で組織されていた「本町西契約講（もとまちにしけいやくこう）」は、年一回寄り合いを行っており、その際講帳という記録が作成されていました。その講帳には、料理の献立と食材の値段などが詳しく書かれており、それを元として江戸時代の料理を再現することができると佐藤氏は指摘されました。この講演を聴講した方からは、その当時の料理を再現したいという方もいらっしゃいました。後日、文政11年（1828）10月12日に村田町を代表する豪商の一つであった大沼正七家で開かれた、寄り合いの際に提供された料理を、11月26日に再現しました。また、会場の後方には、江戸時代から明治時代の指樽（さしたる）・野弁当（のべんとう）・行器（ほかい）などの食に関する漆器10数点を展示しました。





小学生向けイベントのパンフレットでロゴマーク使用

【仙台商工会議所青年部】

仙台商工会議所青年部（仙台 YEG）が主催する小学生向けイベント「杜の都 Kids ウォークラリー」のパンフレット、チラシ、看板でロゴマークを使用しました。

「杜の都 Kids ウォークラリー」は昭和61年から継続して開催されているイベントで、2017年で32回目を迎えました。毎年、1,000人以上の親子が参加し、仙台の街を楽しく歩いています。2017年は、大崎八幡宮をスタートし、仙台市美術館、仙台国際センター周辺、西公園などをめぐるルートを設定しました。仙台城のおひざ元を歩くルートともいえるため、子どもたちが伊達家の歴史を肌で感じられる時間をつくれればと、生誕450周年のロゴを使用しました。子どもたちが親しみやすい「むすび丸」があしらわれたロゴは、パンフレットのデザインを損なわずに配置することができました。



東北・北海道の農業士を政宗公がお出迎え

【宮城県農林水産部農業振興課】

平成29年8月23日・24日の2日間、仙台市秋保で開催された「東北・北海道地域農業士研究会」のオープニングで突然、伊達武将隊が登場し、会場を沸かせました。

本研究会は東北・北海道地域の農業士（※）が一堂に会し地域農業の発展について研究することを目的に開催されたもので、今回のテーマ「現状打破！～導こう 未来への航海 農業は宝島～」は、まさに新たな境地を求め慶長遣欧使節を派遣した伊達政宗公の精神を学ぼうというものでした。政宗公から「農業士が先頭に立って現状打破し、農業の新たな価値を見いだしてほしい」と激励され、参加者の記憶に残る研究会となりました。

※農業士とは、優れた農業経営を実践し、地域農業の振興や後継者育成に指導的な役割を担っている方々で、知事が認定しています。



講座「仙台・歴史アラカルト」

【NPO 法人 シニアネット仙台】

伊達政宗公が青葉山に仙台城を築城、城下町を開いたことによって現在の仙台市があります。その政宗公の生涯や仙台にかかわる歴史をひもとき、魅力を伝えるべく講座を開設しました。

4月から毎月一回、第2木曜日・12回の講座でしたが、初回からの受講者、関心のある講座だけの受講者や途中からの受講者など、延べ288名の参加があり、政宗公に対する興味・関心の大きさを感じさせられる講座になりました。

自分の興味・関心のある講座を選べる企画であった事が受講者数によく影響したのではないかと思います。

途中からの受講者から、聞き洩らした講座があり、今後も続けて欲しいとの声が多く、新たな演題での講座を加える事も含めて対応していくことになりました。



伊達政宗画像 狩野安信筆
仙台市博物館蔵



「政宗ワールド」プロジェクトの取り組み

【「政宗ワールド」プロジェクト事務局】

市民団体「政宗ワールド」プロジェクト(平成28年発足)は、伊達政宗公生誕450年にあたる平成29年、様々な活動を行いました。その中から主なものをご紹介します。

6月9日に株式会社日本レストランエンタプライズがプロデュースした駅弁「政宗公御膳」が発売されました。政宗公・伊達家ゆかりの料理をひとまとめにし、「食でつなぐ政宗ワールド」を体現したものです。8月4日には、旧仙台城大手門、大崎八幡宮、白石城など10枚から成る生誕450年記念オリジナルフレーム切手を1,000部発売し、即日売切れとなりました。

仙台城本丸址で9月30日に開催した「政宗ワールド」フェスタでは、一日の中で伝統的武芸・文芸・芸能を数多く披露し、伊達文化の教育普及、地域間交流、観光の振興につとめました。脈々と受け継がれてきた貴重な伊達文化を継承する皆さまを、宮城県内のみならず山形県米沢市や福島県伊達市からもお招きしてご披露いただき、約2,500人の市民が参加・体験・交流することで、政宗公に関する世界＝「政宗ワールド」を皆が気軽に触れる場とすることができました。中でも、花山・白石・米沢の鉄砲隊の競演は、史上初のご生誕450年の「祝砲」の意味も込めて披露され、観覧の皆さまに大きな感動を与えました。

4月4日より始めた「仙台城大手門」復元署名活動では、平成30年3月末日の時点で署名は19,000名を突破しました。「仙台城大手門」は、宮城県の歴史・文化・伝統を継承する「象徴」及び杜の都・仙台のシンボルとして、復元の機運が市民の皆さまの間で高まってきていると肌で感じております。

これからも、「伊達な文化」と歴史、歴史遺産、歴史的景観を次世代へと受け渡していくために、皆さまとともに様々な活動を展開していきます。



「政宗ワールド」フェスタ 9月30日(土) 10:00~16:00
 伊達政宗公生誕450年記念事業
 「政宗ワールド」を体感する大イベント
 奇麗城本丸址

「政宗ワールド」フェスタプログラム

10:00	開会
10:30	斎藤大輔講演 花山・白石・米沢の鉄砲隊競演
11:00	伊達家御膳(駅弁)試食
11:30	伊達家御膳(駅弁)試食
12:00	伊達家御膳(駅弁)試食
13:00	伊達家御膳(駅弁)試食
13:30	伊達家御膳(駅弁)試食
14:00	伊達家御膳(駅弁)試食
14:30	伊達家御膳(駅弁)試食
15:00	閉会

伊達政宗公生誕450年記念事業
 伊達政宗公生誕450年
 伊達政宗公生誕450年
 伊達政宗公生誕450年

50年後の風景を夢見て
 伊達政宗公生誕450年記念事業
「政宗ワールド」プロジェクト
 「政宗ワールド」フェスタ

伊達政宗公生誕450年記念事業
 「政宗ワールド」プロジェクト
 「政宗ワールド」フェスタ

「政宗ワールド」とは
 「政宗公」「仙台藩」伊達文化をキーワードにした
 史跡・伝承・観光活動をつなぐ広大な世界を指します。

伊達政宗公生誕450年記念事業
 「政宗ワールド」プロジェクト
 「政宗ワールド」フェスタ